

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成24年3月8日 (2012.3.8)

【公表番号】特表2010-533644(P2010-533644A)

【公表日】平成22年10月28日 (2010.10.28)

【年通号数】公開・登録公報2010-043

【出願番号】特願2010-510367(P2010-510367)

【国際特許分類】

C 0 7 C 67/327 (2006.01)

C 0 7 C 69/75 (2006.01)

C 0 7 C 69/38 (2006.01)

C 0 7 C 69/34 (2006.01)

C 0 7 C 69/612 (2006.01)

C 0 7 C 69/40 (2006.01)

C 0 7 C 67/30 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 67/327

C 0 7 C 69/75 Z

C 0 7 C 69/38

C 0 7 C 69/34

C 0 7 C 69/612

C 0 7 C 69/40

C 0 7 C 67/30

【手続補正書】

【提出日】平成23年5月27日 (2011.5.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 及び第 2 のエステル部分を有する第 1 の化合物 A に対して、当該化合物を液体媒体中において  $M_a X_b$  の組成を有する塩基と反応させることにより、第 1 のエステル部分がカルボキシル部分に変換され、第 2 のエステル部分がそのまま残る第 2 の化合物 B を得ることを特徴とするエステルの加水分解方法であって、液体媒体中における比  $[X^{k-}]:[A]$  が  $0.5 \sim 1.6$  の範囲内であり、また  $k > 0$  である、エステルを加水分解する方法。

【請求項 2】

$X = OH$  であり、 $[OH^-]:[A]$  が  $0.7 \sim 1.5$  の範囲内である請求項 1 に記載のエステルを加水分解する方法。

【請求項 3】

$X = OH$  であり、 $[OH^-]:[A]$  が  $0.8 \sim 1.2$  の範囲内である請求項 1 に記載のエステルを加水分解する方法。

【請求項 4】

M がアルカリ金属である請求項 1 に記載のエステルを加水分解する方法。

【請求項 5】

$k = 1$  である請求項 1 に記載のエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 6】

反応が、a) 水とテトラヒドロフラン (THF)、アセトニトリル (CH<sub>3</sub>CN) 及びジメチルスルホキシド (DMSO) からなる群から選ばれる第 2 物質を含む媒体中、又は b) 実質的に 100 容量パーセントの水を含む媒体中で行われる請求項 1 に記載のエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 7】

混合前の反応媒体の成分の容量によって測定される第 2 物質の容量パーセントが 7 % 未満である請求項 6 に記載のエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 8】

塩基が水酸化リチウム (LiOH)、水酸化ナトリウム (NaOH)、水酸化カリウム (KOH) 及び水酸化セシウム (CsOH) からなる群から選ばれるものである請求項 1 に記載のエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 9】

塩基が水酸化ナトリウム (NaOH) 及び水酸化カリウム (KOH) からなる群から選ばれるものである請求項 1 に記載のエステルを加水分解する方法。

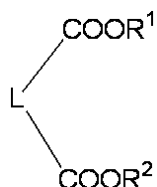
## 【請求項 10】

化合物 A を - 5 ~ 5 の温度 T で塩基と反応させる請求項 1 に記載のエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 11】

化合物 A が以下の化学式：

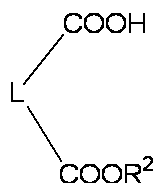
## 【化 1】



式中、L は連結基であり、R<sup>1</sup> 及び R<sup>2</sup> は独立して置換又は非置換アルキル基、アリール基、またはアルキルアリール基の群から選択される基を表す、

で示されるジエステルであり、当該化合物を塩基と反応させることからなる、次式：

## 【化 2】



式中、R<sup>2</sup> は前記に同じ、

で示される化合物 B であるモノエステルを得る請求項 1 に記載のエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 12】

式中、R<sup>1</sup> 及び R<sup>2</sup> が同一である請求項 11 に記載のエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 13】

化合物 A が直鎖状ジエステルである請求項 11 に記載のエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 14】

化合物 A がマロン酸ジエステルである請求項 1 に記載のエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 15】

第 1 及び第 2 のエステル部分を有する第 1 の化合物に対して、  
水性媒体中で当該第 1 の化合物のモル当量数に対する塩基のモル当量数の比が 3 より大きくなるような塩基と反応させること；および  
総反応時間が 90 分以下となるように反応を終了させること、  
からなることを特徴とするエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 16】

総反応時間が 20分～60分 の範囲内である 請求項 15 に記載のエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 17】

反応によりハーフエステルである第 2 の化合物を製造することからなる 請求項 15 に記載のエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 18】

第 1 のエステル部分と第 2 のエステル部分が隣接する第 1 及び第 2 の炭素原子に結合しており、当該第 1 及び第 2 の炭素原子は互いに二重結合で連結しているものである 請求項 15 に記載のエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 19】

第 1 及び第 2 の炭素原子が環構造の一部である 請求項 18 に記載のエステルを加水分解する方法。

## 【請求項 20】

環構造が二環式構造の一部である 請求項 19 に記載のエステルを加水分解する方法。